

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる  
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 11/15 }  
平成30年(2018年)  
No.2241

チェコと日本。  
2つの国のつなぎ手に。

日本から遠く離れた東欧の国、チェコで手に取った1冊の本で、日本に夢中になった少年がいました。彼の名はペトル・ホリーさん、当時14歳。日本の古典芸能、中でも歌舞伎に魅せられてチェコの名門大学から日本の大学院へ。チェコ文化を杉並の地から発信するペトルさんにお話を聞きました。なんでも、チェコ人と日本人は似ているのだとか…!?

特集

すぎなみピト

# ペトル・ホリー



Contents — 主な記事 —

6 | 30年度健康づくり表彰 7 | 区民意向調査の結果がまとまりました 9 | 杉並区障害者週間 16 | 落ち葉感謝祭2018

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📰 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

# 新旧の豊かな文化が息づく杉並は、居心地がいい。

—日本で暮らして約20年。日本に興味を持ったきっかけは何だったのですか？

私が小さかった頃に、チェコで大人気の日本のテレビドラマがあったんですよ。「黄金の犬」というドラマで、チェコ放映時のタイトルは「白い犬のゴロ」。日本の方に聞いても大抵皆首をかしげるのですが、チェコでは国民的ドラマで、私も含めみんな夢中でした。そんな背景もあって日本に興味を持っていた私に、14歳のある日、母が日本に関する本を1冊くれました。読み終えたらすっかり日本に魅了されてしまったのが、全ての始まりです。

—そして、名門カレル大学で日本学を専攻されるに至ったんですね。

日本について学べる大学はカレル大学しかなかったので、頑張りました。日本語教室に通っていたのと、日本の本を大量に読んでいたのが強みになりましたが、「縁」も味方してくれたように思います。当時、カレル大学の日本学科は受験が3年に1度で、ちょうどその年だった。社会的にも社会主義体制が終わり、教育の豊かさや自由さが戻ってきた時期だった。運命のようなタイミングだったのです。

—その後、日本にいらっしゃった。

大学1年生の時の短期留学が最初です。日本のイメージといえば、「ゴロ」で観ていたひと昔前の田舎の風景だったのですが、実際はずいぶん違いましたね(笑)。日本の古典芸能を紹介するビデオをチェコで観て、歌舞伎にすごく感銘を受けたので、銀座の歌舞伎座も訪れました。あの時の歌舞伎小屋独特の「におい」は、いまでも覚えています。一緒に観に行った他の留学生の多くは途中で飽きていましたけれど(笑)。

帰国後も、もう一度日本で勉強したいという気持ちが消えなくて。国費留学で再来日し、念願だった歌舞伎の研究に打ち込むことができました。その後、チェコ大使館が東京に創設したチェコセンターで初代センター長を6年間務め、任期を終えた後、チェコをさまざまな角度から紹介する「チェコ蔵」を立ち上げ、今に至っています。



—区内にお住まいのベトルさん。チェコ蔵の活動拠点でもあります。杉並はどんな印象ですか？

最近荻窪に引っ越したのですが、区内で最初に住んだのは阿佐ヶ谷です。決め手になったのは、商店街。以前暮らしていた谷中の下町の雰囲気も好きだったのですが、それとはまた違う味わいがあったり直感的に好きになりました。商店街にアーケードがあるのも親しみが湧きましたね。傘を持つ習慣のない西洋人の私に向いているな、と(笑)。必要な生活用品はなんでもそろそろ、ただ散歩しながら人やお店を観察しているだけでもすごく楽しいです。



—実際に住んでみてお気に入りの場所はできましたか？

杉並は、所々に古き良き時代を感じられるスポットがあるのが気に入っています。今日のインタビューの場所(阿佐ヶ谷の名曲喫茶『ヴィオロン』)は心が落ち着く、大好きな場所です。あとは、ナポリタンのおいしい喫茶店がたくさんあるのもいいですね。チェコにナポリタンはないのですが、日本でナポリタンを食べると不思議と懐かしい味がします。子どもの頃におばあちゃんが作ってくれたフランクフルトを思い出すからでしょうか。

—杉並は、お仕事でも縁が深い町だとお聞きしました。

杉並に住む以前から、名画座の「ラピュタ阿佐ヶ谷」は何度も訪れたことがあって。大学院では演劇映像が専攻でしたので、日本の古い映画を観る機会も多くて、よく通いました。その後はチェコの映画監督、ヤン・シュヴァンクマイエルの作品を上映する際にトークイベントに出させてもらうなど、仕事でも何かとお世話になっていました。ところが、なぜか仕事で訪れている当時はラピュタ=阿佐ヶ谷にある、ということが結びついていなくて。引っ越してきた翌日に散歩で通りかかった時に初めて「あれ？ ラピュタってここにあったのか…！」と知って感激しました(笑)。すぐそばのミニシアター「ユジク阿佐ヶ谷」でも、チェコの映画を上映する際には解説などをさせてもらっています。それから、高円寺にある女子美術大学では昨春までチェコのアニメーションの授業を持っていました。そんな縁からか、昨年は「日本・チェコ国交回復60周年」として杉並区交流協会の「海外文化セミナー」でもチェコの魅力をお話しています。仕事の思い出もたくさん生まれている町ですね。

—日本で暮らして、チェコとの違いを感じることはありますか？

もちろん違いはありますが、チェコ人と日本人って、意外と気質の似ているところがあるように思います。チェコ人というのは、初対面では「ちょっと頑固」な印象だけど、付き合えば一生の友達になれる。それってどこか日本人にも通じるところがあるような気がして。「持ちつ持たれつ」を大切にしている人情な人も、共通する部分だと思います。あと、玄関で靴を脱ぐのも同じですね(笑)。

—チェコと日本がそんな部分で近いとは知りませんでした！

文化的にも、戦前から深く交流があったんですよ。とくに演劇や建築といった芸術面。チェコの演劇は戦前から日本で上演されていましたし、チェコ人の建築家が設計を手掛けた建物もたくさんありました。なかでも広島県物産陳列館(現在の原爆ドーム。チェコ人建築家ヤン・レツルの設計)が特に知られているものです。それから、チェコといえばクラシック音楽を想像する方も多いと思うのですが、日本に来て、夕暮れの町にドボルザークが流れはじめた時にはびっくりしました。「遠き山に日は落ちて」と呼ばれる、子どもたちが家に帰る時間の定番ソングになっていたとは…！

—杉並からのチェコ文化発信。これから挑戦してみたいことはありますか？

私が主宰するチェコ蔵は、チェコ語やチェコ料理の教室をはじめ、映画、アニメ、演劇の解説などを通して、さまざまなチェコの文化を発信しています。こんな分野でチェコのことを知りたい！と思う方がいらしゃれば、ぜひ声を掛けてください。いま考えているのは、チェコ・ヌーベルバーグ時代の映画を大々的に特集する映画祭を杉並でやってみたい、ということ。政治的な背景もあり、当時日本で上映することがかなわなかった名作がまだたくさんあるので、ぜひ日本の皆さんに観てほしいです。豊かで個性的な文化が息づくこの杉並の地で、そんな映画祭を開催できたらすてきなと思います。



すぎなみピト  
interview

Meg  
ペトル・ホリー

ドブリーデン!  
(こんにちは)

Suginami Association for Cultural Exchange

## 杉並区交流協会で 異文化に触れて みませんか



昨年、ベトルさんが講師を務めた「海外文化セミナー」や、日本で暮らすことになった外国人がごみの分別や防災対策などを学ぶ「ウエルカム・パーティー」、異文化理解講座、日本語スピーチ大会など、杉並区交流協会では外国人の支援や、さまざまな文化の相互理解のためのイベント・講座等を開催しています。12月8日(日)には「海外文化セミナー ベトナム」も開催されます。詳細は、同協会 <http://suginami-kouryu.org/> をご覧ください。

ベトルさんの

### 好きな杉並

どちらもチェコとの縁あり！足を運んでみてくださいね。

#### ラピュタ阿佐ヶ谷

「木々に囲まれた、ユニークな外観の小さな映画館。学生時代に古く珍しい映画を観に通い、仕事でもなにかとお世話に。劇場やレストランも併設されていて、好きな場所の一つです。」

<http://www.laputa-jp.com/>

#### 名曲喫茶 ヴィオロン

「巨大な蓄音機とスピーカーが設置され、クラシックな雰囲気が漂う喫茶店。こだわり抜かれた音響設備で、音楽をゆっくりと楽しむことができます。チェコにも滞在経験のある店主と縁があり、仲良くしています。」

<http://meikyoku-kissa-violon.com/>

#### チェコッとディープなチェコを知ろう!! ウェブサイト「チェコ蔵」



ベトルさん主宰のチェコ情報サイト。チェコ語や料理のほか、映画、アニメ、演劇などのチェコ文化を発信しています。イベント・講座の情報もあり!

<http://chekogura.com>